

太陽黒点観測報告

2018年 11月

観測者 : 村上昌己

1) 概況

今月は、気圧配置は移動性が続いて、安定した晴天は続かなかつた。上旬は関東南部では北高型の気圧配置になって、曇天傾向が続いた。9日から訪れた八ヶ岳では晴天傾向だったうえに南風が入って暖かく、まだ冬の訪れは感じられなかつた。中旬からは雲の出るものの晴天傾向となって、観測日数は伸びた。

黒点活動は、北半球には中旬から小黒点が散発的に出現して相対数を押し上げたが、南半球は10月下旬からの無黒点が続いている。北半球では18日頃に中緯度に極性が反転している領域が、マグネトグラム画像で確認できて、黒点の発生はなかつたが新しいサイクル始まりの息吹が感じられた。

今期は2210~2211周期の観測だった。私の所では、北半球に3群の新しい黒点群を観測した。南半球には黒点活動は観測されなかつた。

2) 日別観測記録

Table with columns: Date, Time, N. Hemisphere, S. Hemisphere, Whole Disk, Central Circle Z, Relative Number, Seeing, Transparence, Group observed, Weather. Rows for dates 01 to 30.

合計 9 51 0 0 9 51 8 43 141 123 -- (---/ 0日)

相対数(10g+f) 141 0 141 123

日平均相対数 7.1 0.0 7.1 6.2

相対数活動比 100% 0% 87.2%

相対数前月比 +∞% -100% +107.4% +925.0%

日平均相対数修正値 (k=0.6) 4.2 0.0 4.2 3.7

観測日数 20 日

観測地 : 神奈川県横浜市泉区和泉中央北 (北緯 35° 25.2' 東経 139° 29.4')
長野県茅野市豊平チエルトの森 (北緯 35° 59.8' 東経 138° 17.5')

使用機器 : 10cm屈折望遠鏡 (f=1200mm) 48倍 15cm投影、80倍、96倍にて拡大スケッチ・黒点数カウント
\* 6.5cm屈折望遠鏡 (f= 780mm) 43倍 15cm投影、62倍、87倍にて拡大スケッチ・黒点数カウント

### 3) 黒点群活動表

略語表

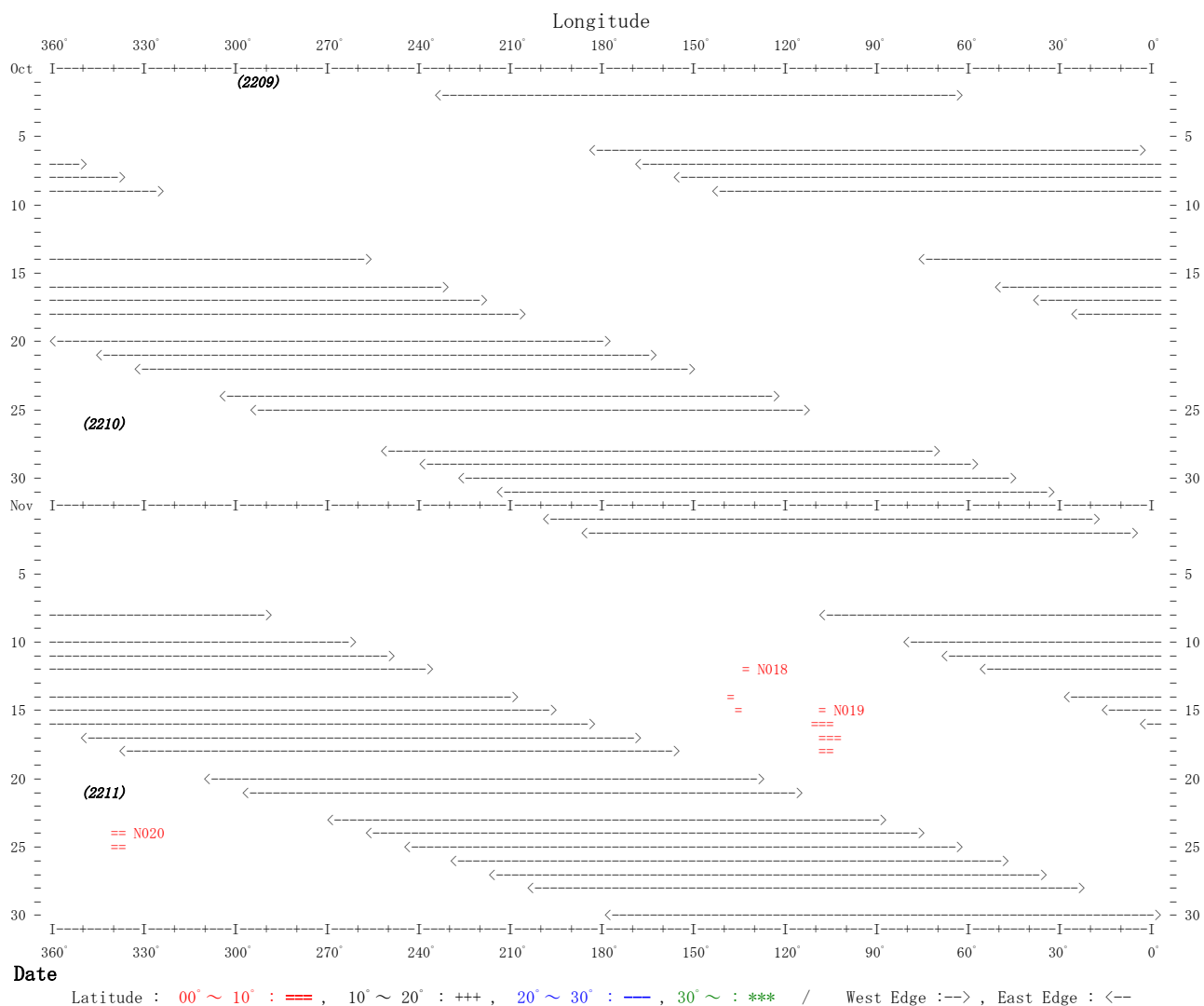
e: East hemisphere; w: West hemisphere; c: Center;  
 a: Appear; d: Disappear; o: Outbreak; l: Lose;  
 \*/\_ : Visible to the naked eyes; uk: Unknown; x: Not find; (p): penumbra

#### 北半球

周期 番号	群番号 Group Number	太陽面 緯度 Lati.	太陽面 経度 Longi.	観測 初日 F. Obs.	観測 中央通過 C. M. P	期間 末日 L. Obs.	活動状況 Before C. M. Passage : <u>CMP</u> : After C. M. Passage
Ro. #	NOAA Murakami						- - - - - : - : - - - - -
2210	12726 N18018	N04-06	134-140	Nov 12	13	15	eco A9 :- :A1 a1 wcl
2210	12727 N18019	N00-01	106-112	15	—	18	co :A5 B6 A5 J8 - w1?
2211	12728 N18020	N04-06	337-340	24	24	25	wco :A9 :A7 wcl

Sunspot Drift-Chart    October 2017 ~ November 2017

北半球    Northern hemisphere



### 南半球

周期	群番号	太陽面	太陽面	観測期	間	活動状況
番号	Group Number	緯度	経度	初日	中央通過	末日
Ro. #	NOAA Murakami	Lati.	Longi.	F. Obs.	C. M. P	L. Obs.
					Before C. M. Passage	:CMP: After C. M. Passage
					- - - - -	: - : - - - - -

(None)

Sunspot Drift-Chart October 2017 ~ November 2017

南半球 Southern hemisphere

